

# 第58回全国高等専門学校体育大会 第57回全国高等専門学校体育大会卓球競技実施要項

- 1. 主催** 一般社団法人全国高等専門学校連合会
- 2. 主管** 全国高等専門学校体育大会卓球競技専門部  
ひたちなか市卓球連盟、茨城工業高等専門学校
- 3. 後援** スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本卓球協会  
茨城県、茨城県教育委員会、公益財団法人茨城県スポーツ協会  
ひたちなか市、ひたちなか市教育委員会、ひたちなか市スポーツ協会
- 4. 大会期日** 令和5年8月19日（土）、20日（日）
- 5. 公式練習** 令和5年8月18日（金）13:00～17:00
- 6. 会場** ひたちなか市総合運動公園総合体育館  
〒312-0005 茨城県ひたちなか市新光町49 TEL: 029-273-9370
- 7. 競技種目**
- (1) 男子団体の部
- ア. 出場校：各地区代表12チーム
- ① 北海道（1校） ② 東北（1校） ③ 関東信越（2校）  
④ 東海北陸（2校） ⑤ 近畿（2校） ⑥ 中国（1校）  
⑦ 四国（1校） ⑧ 九州沖縄（1校） ⑨ 開催校（1校）
- イ. チーム編成（ベンチ入りできる者）  
監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、男子選手8名以内の計11名以内
- (2) 女子団体の部
- ア. 出場校：各地区代表8チーム（+開催校）
- ① 北海道（1校） ② 東北（1校） ③ 関東信越（1校）  
④ 東海北陸（1校） ⑤ 近畿（1校） ⑥ 中国（1校）  
⑦ 四国（1校） ⑧ 九州沖縄（1校） ⑨ 開催校（1校）
- \*開催校が地区代表にならなかった場合、開催校枠にて出場できる
- イ. チーム編成（ベンチ入りできる者）  
監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、女子選手8名以内の計11名以内
- (3) 個人戦
- ア. 参加人数：監督（出場校ごと）1名
- ① 男子シングルス 各地区代表2名（ただし、北海道1、開催校1）計16名  
② 男子ダブルス 各地区代表2組（ただし、北海道1、開催校1）計16組  
③ 女子シングルス 各地区代表2名（ただし、北海道1、開催校1）計16名  
④ 女子ダブルス 各地区代表2組（ただし、北海道1、開催校1）計16組
- イ. ベンチ入りできる者：  
個人登録された監督、コーチ、選手または団体登録された監督、コーチ、マネージャー、選手のうち1名
- 8. 参加資格** 高等専門学校の学生で、（公財）日本卓球協会に本年度登録している者であること。

## 9. 競技規則

- (1) 現行の日本卓球ルールによる。
- (2) 使用球は（公財）日本卓球協会公認プラスチック球40 mmホワイトとする。
  - ・日本卓球株式会社（Nittaku） 3スタープレミアムクリーン
  - ・株式会社VICTAS VP40+ 3スターボール
  - ・株式会社タマス（BUTTERFLY） スリースターボールR40+
- (3) 選手は（公財）日本卓球協会指定のゼッケンを背につけなければならない。
- (4) 団体戦及び個人ダブルスは同一の（公財）日本卓球協会公認のウェアを着用する。  
また、団体戦、個人ダブルス、個人シングルスとも対戦相手とは異色にする。

## 10. 競技方法

- (1) 男子団体の部
  - ア. 出場チームをA、B、C、Dの各ブロックに分け、ブロック別に予選リーグを行い各ブロックの1位チームによる決勝トーナメント（準決勝の組合せはA対B、C対Dとする。）を行う。また予選リーグ各ブロック2位チーム（4チーム）と、決勝トーナメント一回戦敗退チーム（2チーム）で3位決定トーナメントを行う。  
（組合せは準決勝A対Bの敗者はC対Dの2位チームの勝者と対戦し、準決勝C対Dの敗者はA対Bの2位チームの勝者と対戦し各々の勝者を3位とする）
  - イ. 試合は、4シングルス、1ダブルスの編成とし、3番にダブルスをおき、3点先取法とする。また、1、2番に出場する選手のみでダブルスを組むことはできない。
  - ウ. シングルス、ダブルスともに11本5ゲームマッチとする。

### (2) 女子団体の部

- ア. 出場8チームの場合は、A、Bの各ブロックに分け、ブロック別に予選リーグを行い各ブロックの1位チームと2位チームの4チームによる決勝トーナメントを行う。決勝トーナメントの一回戦はAブロックの1位チームとBブロックの2位チーム、Bブロックの1位チームとAブロックの2位チームとする。（3位決定戦は行わない）  
出場9チームの場合は、A、B、Cの各ブロックに分け、ブロック別に予選リーグを行い各ブロックの1位の3チームによる決勝リーグ、2位チームによる3位決定リーグを行う。1位リーグの上位から優勝、準優勝、3位、及び3位決定リーグの1位チームを同3位とする。（3位決定戦は行わない）
- イ. 試合は、4シングルス、1ダブルスの編成とし、3番にダブルスをおき、3点先取で勝敗を決定する。また、1、2番に出場する選手のみでダブルスを組むことはできない。
- ウ. シングルス、ダブルスともに11本5ゲームマッチとする。
- エ. エントリー数により競技方法を変更する場合がある。

### (3) 個人戦

- ア. 出場選手をA、B、C、Dの各ブロックに分け、ブロック別に予選リーグを行い各ブロックの1位選手による決勝トーナメント（準決勝の組合せはA対B、C対Dとする。）を行う。また予選リーグ各ブロック2位選手と、決勝トーナメント一回戦敗退選手で3位決定トーナメントを行う。  
（組合せは準決勝A対Bの敗者はC対Dの2位選手の勝者と対戦し、準決勝C対Dの敗者はA対Bの2位選手の勝者と対戦し各々の勝者を3位とする）
- イ. シングルス、ダブルスともに11本5ゲームマッチとする。

## 11. 組合せ

参加申し込み後、主管団体の責任において決定し、その結果を直ちに出場校に通知する。

(1) 男子団体の部

ア. シード4チームを決定する際には次の事項を考慮する。

(ア) 前年度本大会ベスト4のチームを上位にシードする。1位は優勝チーム、2位は準優勝チーム、3位は、3位決定戦の勝者で、予選リーグを1位で通過し決勝トーナメントで優勝チームに敗退したチームを上位とする(3位決定戦の勝者2チームが予選リーグ1位と2位通過の場合は予選1位通過が上位、2チームが2位通過の場合は、優勝及び準優勝したチームの予選ブロック順位をそれぞれ1位、2位とし、優勝したチームに敗退したブロックを3位として、そのブロック順位から出場したチームをブロック順位に応じて上位とする)。ただし、該当チームが地区大会で2位以下(ただし、同一地区から入賞校が2校以上ある場合は、地区大会2位でもシードになりうる)又は出場しない場合は、その所属地区の1位チームを前年度の本大会における該当チームの順位に応じて下位に順番にシードする。シード順位はA、D、C、Bの各ブロック順とする。

(イ) (ア)でも決定できない場合は、出場地区の1位チームから抽選で下位に順次決定する。

イ. 同一地区の代表チームの1位と2位は決勝トーナメントの決勝戦まで対戦しないようにする。(東海北陸地区は、この限りでない。)また、ア. で決定した同一地区のシードチームが決勝戦までに対戦する場合は、C1、B1のシードの入れ替えを行う。)

ウ. 前年度の大会の組合せを考慮する。特に、予選リーグについて、前年度と同じ対戦相手とならないように配慮する。

(2) 女子団体の部

ア. 前年度本大会団体戦上位チームをシードする。1位は優勝チーム、2位は準優勝チーム、3位は準決勝で優勝チームに敗退したチームとしそれぞれのブロックにシードする。

イ. シード以外は抽選とする。

ウ. エントリー数により組合せを変更する場合がある。

(3) 個人戦

ア. シード4個人を決定する際には次の事項を考慮する。

(ア) 前年度本大会ベスト4の個人を上位にシードする。1位は優勝個人、2位は準優勝個人、3位は3位決定戦の勝者で、予選リーグを1位で通過し決勝トーナメントで優勝した個人に敗退した個人を上位とする(3位決定戦の勝者の2者が予選リーグ1位と2位通過の場合は予選1位通過が上位、2者が2位通過の場合は、優勝及び準優勝した個人の予選ブロック順位をそれぞれ1位、2位とし、優勝した個人に敗退したブロックを3位として、そのブロック順位から出場した個人をブロック順位に応じて上位とする)。ただし、該当個人が出場しない場合は、その所属地区の1位個人を前年度の該当個人の本大会順位に応じて下位に順番にシードする。なお、シード順位はA1、D1、C1、B1の各ブロック個人番号とする。

(イ) (ア)で決定できない場合、出場地区の1位個人から抽選で下位に順次決定する。

(ウ) ダブルスの場合は、前年度のペアと異なる場合にはシードしない。

イ. 同一地区の代表個人の1位と2位は、決勝戦まで対戦しないようにする。(東海北陸地区はこの限りではない。また、ア. で決定した同一地区のシード選手が決勝戦までに対戦する場合は、C1、B1のシードの入れ替えを行う。)

ウ. 地区大会の成績を考慮する。

エ. 前年度の大会の組合せを考慮する。(予選リーグの各ブロックの対戦相手は、前年度と同じ対戦相手とならないように配慮する。)

- 12. 表彰** (1) 団体優勝校には、賞状及び文部科学大臣杯とメダルを授与し、2位、3位チームには賞状及びメダルを授与する。  
(2) 文部科学大臣杯は、団体優勝校の持ち回りとする。  
(3) 前年度団体優勝校には、文部科学大臣杯受賞章を授与する。  
(4) 個人種目は1位、2位、3位に賞状及びメダルを授与する。  
(5) 功績が特に顕著なチーム、個人に対しては特別に表彰することがある。

- 13. 選手の変更** 不慮の事故（ア、イ）による団体の部の選手変更は、大会前日までに変更届を開催校に提出した上で、代表者会議において協議の上認める場合がある。個人の部では変更を認めない。  
ア. 選手の病気、怪我による入院。（医療機関の診断書又は証明書を添付する）  
イ. 3親等以内の不幸。（届書を添付する）

**14. 監督、コーチ、マネージャーの資格**

- (1) 団体の部  
ア. 出場校の校長が認めた次の者とする。  
監督：教員  
コーチ：教員、職員（非常勤・外部コーチ含む）又は学生  
マネージャー：教員、職員（非常勤・外部コーチ含む）又は学生  
(2) 個人の部  
ア. 出場校の校長が認めた次の者とする。  
監督：教員  
コーチ：教員、職員（非常勤・外部コーチ含む）又は学生  
※個人の部と団体の部の両方に出場する学校の監督は団体の部と重複してよい。  
(3) ベンチ入りする監督、コーチ、マネージャーは標章を身に付け、選手はゼッケンを身に付ける。

**15. 監督、コーチ、マネージャーの変更**

- (1) 大会前日までに変更届を開催校に提出し、代表者会議で審判長と競技委員長の承認を必要とする。

- 16. 競技マナー** (1) 選手は高専生らしい真摯な態度で試合を行うように努める。  
(2) ポイントごとの間は速やかにプレーに入り、不必要に時間を取らない。  
(3) ベンチや応援団の応援は日本卓球ルールに準拠し、試合進行の妨げにならないように心がけると同時に、過度に声を発する応援は慎む。

- 17. 代表者会議** (1) 日 時 令和5年8月18日（金）16：00～17：00  
(2) 場 所 ひたちなか市総合運動公園総合体育館 サブアリーナ  
〒312-0005 茨城県ひたちなか市新光町49 TEL：029-273-9370

- 18. 開会式** 令和5年8月19日（金）17：15から競技会場で行う。

- 19. 閉会式** 令和5年8月21日（日）全競技終了後、競技会場で行う。

- 20. 宿 舎** 希望する学校に斡旋する。

## 21. 参加料及び納入方法

参加料	男子団体の部	1チーム当たり	14,400円
	女子団体の部	1チーム当たり	14,400円
	個人の部	選手1人当たり	1,800円

(「団体の部」登録選手の「個人の部」参加料は、無料とする。)

参加料は参加申込みと同時に振込口座へ納入すること。なお、既納の参加料は返還しない。

[振込口座]

金融機関名 常陽銀行 ひたちなか支店

口座種別 普通

口座番号 1989055

口座名 独立行政法人国立高等専門学校機構本部

(フリガナ) ドクツキョウセイホウジンコクリツコウトウセンモンガクコウホフ

## 22. 参加申込

- (1) 申込期限 令和5年7月28日(金) (必着とする)
- (2) 申込先 〒312-8508 茨城県ひたちなか市中根866  
茨城工業高等専門学校 学生課内  
第58回全国高等専門学校体育大会 卓球競技事務局  
TEL: 029-271-2830 FAX: 029-271-2840
- (3) 申込方法 各地区の担当校が別途定める参加申込書で申し込むこと。

## 23. 新型コロナウイルス感染症対策

別途一般社団法人全国高等専門学校連合会が定める「全国高等専門学校体育大会における新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に関するガイドライン」によるほか、(公財)日本スポーツ協会における競技団体別ガイドライン等の感染拡大予防対策を行い運営するものとする。

参考: 日本卓球協会における新型コロナウイルス感染症対策 (ガイドライン)

<https://jtta.or.jp/news/10786>

## 24. その他

- (1) 試合中の負傷については、大会本部で応急処置をするが、その後の処置は各学校及び各自で行うこと。
- (2) 健康保険証等は、各自で準備しておくこと。(写は不可)
- (3) 独立行政法人日本スポーツ振興センター所定の用紙を各学校で持参すること。
- (4) 大会出場者で、ホームページや報道等に個人名を公表して欲しくない者は、学校を通して大会事務局 (gakusei@sec.ibaraki-ct.ac.jp) へ申し出ること。事前に申し出のない場合は、公表する。
- (5) 大会当日(8月19日(土)、20日(日))は、JR勝田駅周辺にて「第29回ひたちなか祭り」が開催され、駅周辺の大通りは車両通行止めとなる。バスやタクシーでの移動を検討している場合は、時間に余裕をもたせた旅程であることが望ましい。

